

## 【第12分科会】 親と子の喜びは絵本から

発表者 山崎 ます子（おはなしポケット）・金子 芳子（おはなしポケット）

助言者 堀井 正子（近代文学研究家）・戸谷 浪子（おはなしポケット）

### 1 発表の概要

市立長野図書館を中心に活動しているボランティア団体「おはなしポケット」が取り組んでいる市立図書館での読み聞かせや、保健センターで行われている長野市版ブックスタート「おひざで絵本」事業への参加についての発表が行われた。



#### (1) 「おはなしの部屋」での読み聞かせ

- ・平成21年から、毎週水曜日 午後3時半から4時までの30分間、市立長野図書館の「おはなしの部屋」で2人1組で読み聞かせをしている。
- ・内容は、紙芝居・絵本・折り紙など
- ・あらかじめ読んであげたい紙芝居・大型絵本など10冊以上用意し、壁際に並べて子供達に選んでもらう。(季節・行事等)
- ・一番興味を引くのは食べ物が出てくる本で、好きなものを聞くととても盛り上がる。
- ・好きな本を読むというと、本棚から次々に持ってきてお母さんに怒られる子も。
- ・アンパンマンシリーズは人気があるので1・2冊入れるようにしている。
- ・一方的に読まず、問いかけをしたりする。
- ・他県から引っ越してきた人も図書館のことを

知り、参加してくれる。

- ・「広報ながの」の「図書館からのお知らせ」の中におはなし会のことも毎月載せてもらっている。
- ・図書館職員も毎回気持ちよく対応してくれている。
- ・本を通して子供達と楽しい時間を過ごすことができ至福の水曜日です。

#### (2) ブックスタート「おひざで絵本」事業にかかわって

- ・平成19年から、市の保健センターで、7～8か月児健康教室の後、読み聞かせを行っていた。
- ・平成21年から長野市版ブックスタート「おひざで絵本」事業が始まり、絵本の配布も行われるようになった。
- ・引き続き読み聞かせを引き受け、市内10か所の保健センターで、毎回「おはなしポケット」の会員2～3名が活動している。
- ・健康教室の後、グループに分かれていただきお母さん達に「赤ちゃんにはおっぱいやミルクが必要、心や言葉の成長には、周囲の人々の愛情に満ちた優しい言葉の語りかけが大切です。赤ちゃんを膝にだっこして、肌のぬくもりを感じながら絵本を読んであげれば、とても幸せな時間になると思います。時間を見つけて読んであげてください。」と挨拶する。
- ・5冊の本を読んで、赤ちゃんやお母さんの反応を見ながら、質問を受けたり、アドバイスをしたり、市立図書館でのおはなし会などのお知らせをする。
- ・長野市「おひざで絵本」事業の絵本選定委員

- の選んだ5冊は、「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」「くだもの」「あ・あ」「どうぶつのおやこ」(H27.12~29.11)
- ・赤ちゃんに向き合い、興味を持ってくれるように優しく語りかける。



## 2 ワークショップ

グループを作らず、それぞれの団体や図書館からさまざまに質問をいただき、おはなしポケットや参加者が回答したり、自館の取り組みを発表するなど、意見交換が行われた。

○祖母がおはなしポケットに関わっている子は、小さいときから読み聞かせをしてもらっていた。1年生でもとても読書力がある。

○「おひざで絵本」の選考委員におはなしポケットは入っているのか。委員は何人か。

— 入っている。委員は7人

○おはなし会に来る子どもはいくつぐらいか。

— 未就学児。小学生の参加を見込んで職員会のある水曜日に行っているが、保育園や幼稚園帰りの子が多い。

○学校にも読み聞かせに行っているのか。

— 中学校の読書週間など、声がかかればどこにも行く。「しなの文庫」や紙芝居などを読む。

○読み聞かせ中に、幼児に中断させられた時の対処は。

— 他の子が困るので、「あとでね。」と声をかけて読み聞かせは続ける。

— 学校では聞くことも学習の一つであるので流しておく。

○読み聞かせは、児童館が一番大変で悩んでいる。アイデアやアドバイスが欲しい。

— 児童館は本が好きな子だけ集めて開いたらど

うか。いろいろな子の集まりと割り切る。

○千曲市は7か月検診時と、小学校入学時に本を贈っている。もらった後、有効に利用してもらえているかが心配。

— 保健センターによって保健師さんの対応の違いがあるが、お母さんに自分がゆったりしている時に自分も楽しんで読んであげてと言っている。

○南部図書館では「赤ちゃんのおはなし会」をやっている。千曲市のように小学校入学時にも本を贈りたい。

○図書館のおはなし会に小学生が参加してくれない。どうしたら参加してもらえるか。

— 本当に本が好きな子か、親が図書館に来る子に限られるかなと思う。

— 孫は幼稚園の時は聞いたが、図書館に行っても自分の好きな本の方に行ってしまう。

— 折り紙がうまいボランティアがいる。子ども達が集中する。

— 紙芝居は枠があることで楽しい。時間が区切れず続けることもある。

— 軽井沢図書館では、年1回「小学生のための読書会」を開催している。内容は、絵本、ことばあそび、大型紙芝居など。

— 上田創造館では「うえだおはなしフェスティバル」を開催している。「母親文庫」活動の延長。教育委員会の共催で、小学生の影絵劇団が発表する演目もある。200人ぐらい集まる。

○新しいボランティアの募集はどうしているか。

「おはなしポケット」の年齢層はどのぐらいか。

— 市の広報で募集してもらっている。「ボランティア保険」にも加入している。年齢は70~80代が多い。30代もいる。「母親文庫」が母体。

## 3 指導助言

おはなしポケット戸谷代表：図書館の行事に積極的に関わっていく姿勢を貫いている。ボランティアは行政に手伝ってもらわないと動けない面がある。行政と仲良くすることも大切。

堀井：親として子どもにできることは、たくさんの「体験」をさせてあげることであり、その体験の一つが読み聞かせや読書。まずは子どもが“本とお友達になる”ことが大切。本にたくさん触れさせ、読みたい世界を広げてあげてほしい。